

命をつなぐ

島根県 十楽寺 住職 伊藤隆邦

先日、妻が五歳になる息子に「いい絵本があったよ」と、優しく話しかけました。その絵本は「こないだ、じいちゃんが死んじゃった」というページから始まります。

絵本の内容はというと……。亡くなったおじいちゃんの部屋から、一冊のノートが見つかりました。それは「天国は、きつとこんなところ」「生まれ変わったら、なりたいもの」「残されたみんなを、見守っていく方法」などが書かれています。それは、おじいちゃんの想像力とユーモアが溢れる楽しいノートだったのです。

お孫さんは夢中になってノートを読みふけりましたが、ふと疑問が浮かびます。「本当におじいちゃんは、天国へ行くのが楽しみだったのかな？でも、よく考えたら、本当はすごく寂しくて怖かったのかもしれない。だから、このノートを書いたんじゃないかな」と……。そ

の子は、おじいちゃんが死に向かうことを、どんな気持ちだったのか想像しはじめますが、答えが出ず自分もノートを買って書き始めます……。

皆さんは、ご家族と、死について語り合うことがありますか？死を見つめ、家族とその価値観を分かち合う事は、死への不安を取り除き、家族の絆を深めていくような気がします。先日、私は息子と、虫の亡骸を見ながらしばらく話をし、それから二人で手を合わせました。こんな時間を大切にしていきたいと思います。

(平成二十九年 四月放送)